

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立北巽小学校 学校協議会

1 総括についての評価

○北巽小学校においては、「自尊感情の低さ」「荒れる子ども」「学力の低さ」が課題と考えられ、「学校全体で取り組むポジティブ行動支援（S W P B S）」に取り組んでいる。今年度から「エビデンスベースの学校改革」フォロア一校となり、さらに学力向上や生活指導上の問題等の学校教育課題解決ができる学校組織づくりを進めていった。また、「学力向上支援チーム事業」重点支援校となり、学びサポーターの活用や放課後学習指導等にも取り組んでいった。

【安全・安心な教育の推進】について

学期に 1 回、「いじめを考える週間」を設定した。毎月の「いじめ不登校等防止対策委員会」で、いじめ・不登校・その他問題行動等について情報共有し、解決に向けての共通理解を図った。「心の天気」や「生活指導記録シート」等により、客観的に児童の実態を考察し、日々の生活指導に生かしていくことが大切である。児童の問題行動や不登校、虐待の課題については、今後も S C や S S W 、区役所の子育て支援室、中央子ども相談センター等と連携した取り組みを継続していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

タブレット等 I C T 機器の活用によって、児童の考えを深めたり、広げたりする交流活動を大切にしている。T ・ T や習熟度別少人数指導、学びサポーターや特別支援教育サポーター等複数人数での指導等を継続することができた。また、「授業におけるポジティブ行動支援計画シート」を活用し、「わかる授業からできる授業」の指導方法を工夫していったが、十分ではなかった。学習意欲は高まってきてはいるが、基礎学力の定着や学力向上の指導法の工夫等にはまだまだ課題がある。

体育科の授業で、児童の運動意欲を高めるために、指導内容を工夫していった。年間を通じて、「元気モリモリランド」や「耐寒運動（なわとび運動）」等学校全体で取り組んでいた。保健指導・食に関する指導や食育週間、「元気モリモリ週間」等で、早寝・早起き、朝ごはん、進んで運動を行うことができるよう取り組んでいた。保護者の協力が必要で、保健だより、給食だより、食育通信やホームページ等により、家庭の啓発を継続していく。

【学びを支える教育環境の充実】について

デジタルドリル（ナビマやミライシート）や心の天気、連絡帳、発表ノートを利用した意見交流等で、ほぼ毎日学習端末機を活用することができた。働き改革を意識して、ゆとりの日の設定し、実施することができた。学年が上がるについて、読書の時間の確保が難しくなっている。読解力の向上においても、読書活動を工夫していく必要がある。○令和 7 年度に向け、中期目標のそれぞれの項目で成果が出るように、「エビデンスベースの学校改革」「学力向上支援チーム事業」の取り組みを推進していく。2つの事業を継続、融合しながら、本校の教育課題を解決できるようにしていきたい。来年度からは、「総合的読解力育成カリキュラム」が本格的に実施される。今年度の 1 単元の実践を踏まえて、実践研究を進める必要がある。また、カリキュラムマネージメントの観点から、各教科の年間指導計画を作成する必要がある。（「食育」「国際理解」等をテーマにして作成する。）

2 年度目標ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進
・達成状況に関しては概ね妥当である。 ・学校全体で生活指導聞き取りシートやいじめアンケートを活用し、今年度のデータとともに次年度への引継ぎを進めるとともに、引き続き対策・対応に取り組んでいく。
年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上
・達成状況に関しては概ね妥当である。 ・「授業におけるポジティブ行動支援計画シート」を活用し、「わかる授業からできる授業」の指導方法を工夫していった。学習意欲は高まってきているが、基礎学力の定着や学力向上の指導法の工夫等にはまだまだ課題がある。
年度目標：学びを支える教育環境のし、充実
・達成状況に関しては概ね妥当である。 ・デジタルドリル（ナビマやミライシート）や心の天気、連絡帳、発表ノートを利用した意見交流等で、ほぼ毎日学習端末機を活用することができた。

3 今後の学校園の運営についての意見

○校内調査で「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が、91%であり、毎年割合が高くなっている。数年前の児童の様子と比べて、自尊感情や自己肯定感が高められている。「いいとこみつけ」等、学校全体で取り組むポジティブ行動支援（SWPBS）の取り組みの成果がでできているという意見をいただいた。今後も、学校運営の基盤としても SWPBS の取り組みを継続していく。

○自己肯定感が強いことや、全国体力・運動能力、運動習慣等調査から体力面においては全国平均前後である。後は、学力面の向上を期待する。学習面においては、T・T や習熟度別少人数指導、学びサポーターや特別支援教育サポーター等複数人数での指導等を継続することができている。小学校学力経年調査の平均正答率IV区分の児童を減らすことも大切であるが、上位区分の児童を増やす取り組みも必要ではないかという意見をいただいた。学力向上においては、学習への意欲・関心を高め、学習内容の定着を図ることが必要である。

○保健指導・食に関する指導や食育週間、「元気モリモリ週間」等で、早寝・早起き、朝ごはん、進んで運動を行うことができるよう取り組んでいった。特に、進んでバランスの取れた朝食をとることができるようにする等、朝食の大切さについて理解できるように取り組んできた。校内調査では、「朝食を食べている」で、肯定的に回答している割合が90%と高いことはすばらしいという意見をいただいた。

○学年が上がるにつれ、読書の時間が確保できにくくなっている。図書館開放を図書委員会でも実施できるようにする等、児童が図書室を利用する機会を増やす工夫をしていく。また、学級に置く図書も充実するようにして、読書をする時間を意識した取り組みが大切である。